

植物多様性センターの「枯れ葉擬態疑惑？」

草本が常緑で冬越しをする際、ロゼットという丸くて平たいバラの花のような形になることはよく知られています。それとともに、寒さで紅葉するものも多くあります。ところが、寒さを防ぐための抗酸化物質であるアントシアニンの蓄積というには、あまりにも茶色や褐色の枯れ葉色をした植物が見られます。もしかしたら、小鳥などに食べられないよう、おいしそうな緑色でなく、茶色の枯れ葉に擬態しているのかもしれない。



芝生の中に生育するユキワリイチゲの葉：まさに枯れ葉色



フユノハナワラビの栄養葉：日陰では緑、日向では茶色



キランソウ：紫色というよりはブロンズ色という感じ



左からケヤキの枯れ葉、中央：オニタビラコ、右：ヘビイチゴ